令和元年度(2019年度)

「市長と語る」の記録

あなたのみちを、
あるけるまち。
八王子

八王子市

は　じ　め　に

市長が地域に出向き、市政について報告するとともに、市民の皆様と膝を交えてご意見・ご提案等をお聴きする「市長と語る」は、市民と行政が協働のまちづくりを進めるための大切な機会です。

令和元年度（2019 年度）は、５月から６月にかけて全４回実施しました。

今回は「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」をテーマに、各会場で「地域づくり」について、28 名の方々からご提言などをいただきました。

また、各会場を合わせ 297 名の皆様にご参加いただき、地域での活動内容や課題等を幅広い世代の皆様と共有することができました。あらためて感謝申し上げます。

市では、いただいた皆様のご提案等を、今後の施策推進への参考としてまいります。

目　　次

1. 意見・要望等項目別件数 …… 1

2. テーマ・各会場の実績 …… 2

3. 所管別内容

(1)所管別件数一覧表 …… 2

(2)所管別件名一覧表 …… 3

4. 意見・要望等及び市長答弁の要旨

八王子駅南口総合事務所 …… 6

元八王子市民センター …… 11

由木東市民センター …… 16

由井市民センター …… 21

5. 過去の提案等取り組み状況 …… 28

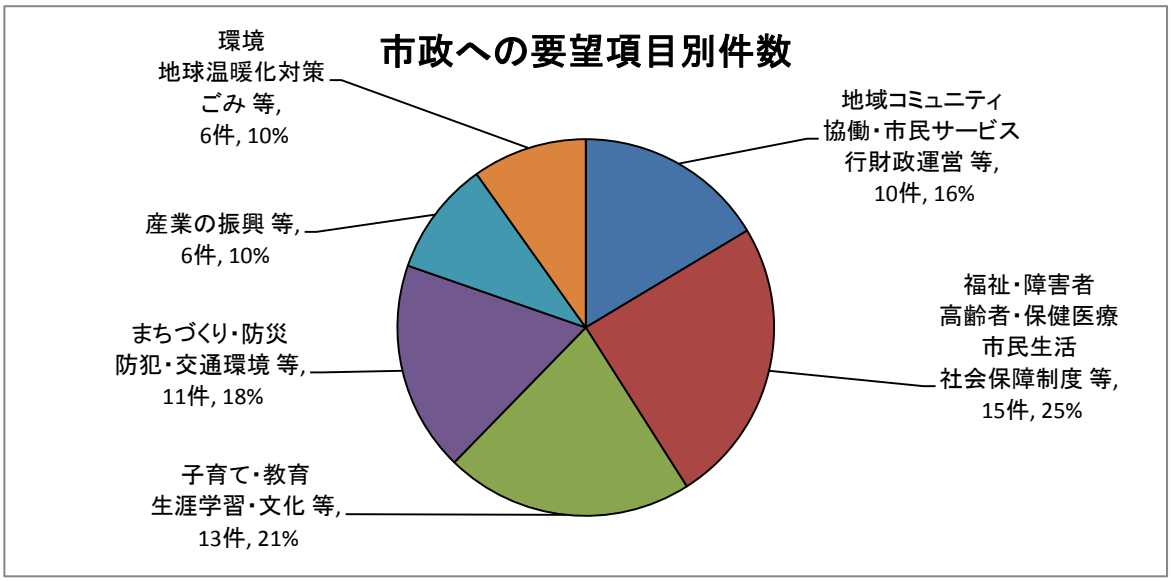
6. 会場配布資料 …… 35

7. 開催案内ポスター …… 37

1. 意見・要望等項目別件数

会場 / 要望項目の分野	第1回 八王子駅南口総合事務所	第2回 元八王子市民センター	第3回 由木東市民センター	第4回 由井市民センター	合計
地域コミュニティ・協働・市民サービス・行財政運営 等 （第1編 みんなで担う公共と協働のまち）	4	1	3	2	10
福祉・障害者・高齢者・保健医療 市民生活・社会保障制度 等 （第2編 健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち）	4	1	4	6	15
子育て・教育・生涯学習・文化 等 （第3編 活き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち）	3	4	1	5	13
まちづくり・防災・防犯・交通環境 等 （第4編 安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち）	2	2	2	5	11
産業の振興 等 （第5編 魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち）	2	2	1	1	6
環境・地球温暖化対策・ごみ 等 （第6編 一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち）	0	0	2	4	6
合計	15	10	13	23	61

※ 分野の区分は、基本構想・基本計画「八王子ビジョン2022」の都市像による



2. テーマ・各会場の実績

テーマ:「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」

開催日	会　場	延べ参加者数（人）	発言者数（人）	発言項目数（件）
5月25日	八王子駅南口総合事務所	105	8	8
6月1日	元八王子市民センター	76	7	7
6月22日	由木東市民センター	55	6	7
6月29日	由井市民センター	61	7	13
		297	28	35

3. 所管別内容

（1）所管別件数一覧表

部　名	件数	部　名	件数
都市戦略部	2	環境部	2
総合経営部	1	資源循環部	4
市民活動推進部	8	都市計画部	2
生活安全部	5	拠点整備部	1
福祉部	11	まちなみ整備部	2
医療保険部	2	道路交通部	3
健康部	3	学校教育部	8
子ども家庭部	7	生涯学習スポーツ部	3
産業振興部	5	合計	69

※一件の発言に対し、担当が複数の所管にまたがることがあるため、発言項目数と件数が異なる。

（2）所管別件名一覧表

都市戦略部　2件

案件番号	発　言　項　目	開催日
3	具体的な少子化対策で未来の八王子を確実なものに	5月25日
15	オンガタマルシェとオンガタ銀座商店会立ち上げについて	6月1日

総合経営部　1件

案件番号	発　言　項　目	開催日
33	八王子市の経済発展といじめ虐待がない社会の実現のための子育て応援企業の可能性と未来について	6月29日

市民活動推進部　8件

案件番号	発　言　項　目	開催日
1	八王子に若者の居場所と社会参加のきっかけを作る活動からの要望について	5月25日
3	具体的な少子化対策で未来の八王子を確実なものに	5月25日
4	宇津木町～石川町谷地川沿遊歩道（街路灯設置要望）について	5月25日
8	市民同士の繋がりについて	5月25日
16	ニュータウンの資源としての価値と八王子の将来について	6月22日
19	人を支えるっていいね	6月22日
22	自治会結成・加入率向上に向けた今後の施策について	6月22日
30	若い力の活用について	6月29日

生活安全部　5件

案件番号	発　言　項　目	開催日
8	市民同士の繋がりについて	5月25日
9	梅雨期等の集中豪雨対策について	6月1日
13	市内のより多くの小学生に防災の大切さを知らせたい	6月1日
29	みんなで支え合い、安心して暮らせる地域を作るために	6月29日
30	若い力の活用について	6月29日

福祉部　11件

案件番号	発　言　項　目	開催日
2	支え合いの輪を広げる為に	5月25日
5	聴覚障害をもつ高齢者等を支援するための、相談支援の設置について	5月25日
6	高齢者福祉について	5月25日
7	だれでも食堂の運営報告について	5月25日
16	ニュータウンの資源としての価値と八王子の将来について	6月22日
18	高齢者の住居の受皿について	6月22日
20	難聴による補聴器関連について	6月22日
23	職場体験について	6月29日
24	見まわり活動について	6月29日
34	小・中学生と保護者による認知症の方の見守りについて	6月29日
35	子どものために集うまちづくりについて	6月29日

医療保険部　2件

案件番号	発　言　項　目	開催日
30	若い力の活用について	6月29日
32	八王子市営温水プールの利用許可のお願いについて	6月29日

健康部　3件

案件番号	発　言　項　目	開催日
12	元八王子2丁目の地域猫活動について	6月1日
17	ゴミ屋敷対策について	6月22日
32	八王子市営温水プールの利用許可のお願いについて	6月29日

子ども家庭部　7件

案件番号	発　言　項　目	開催日
2	支え合いの輪を広げる為に	5月25日
7	だれでも食堂の運営報告について	5月25日
10	こども食堂の活動報告について	6月1日
14	行政・民間が行っている子育て支援への関わり、考え方について	6月1日
23	職場体験について	6月29日
29	みんなで支え合い、安心して暮らせる地域を作るために	6月29日
33	八王子市の経済発展といじめ虐待がない社会の実現のための子育て応援企業の可能性と未来 について	6月29日

産業振興部　5件

案件番号	発　言　項　目	開催日
1	八王子に若者の居場所と社会参加のきっかけを作る活動からの要望について	5月25日
3	具体的な少子化対策で未来の八王子を確実なものに	5月25日
15	オンガタマルシェとオンガタ銀座商店会立ち上げについて	6月1日
16	ニュータウンの資源としての価値と八王子の将来について	6月22日
29	みんなで支え合い、安心して暮らせる地域を作るために	6月29日

環境部　2件

案件番号	発　言　項　目	開催日
21	堀之内里山保全地域でのボランティア活動について	6月22日
31	生活の足としてのクルマの故障予防について	6月29日

資源循環部　4件

案件番号	発　言　項　目	開催日
17	ゴミ屋敷対策について	6月22日
24	見まわり活動について	6月29日
25	生ごみ資源化の補助金について	6月29日
32	八王子市営温水プールの利用許可のお願いについて	6月29日

都市計画部　2件

案件番号	発　言　項　目	開催日
16	ニュータウンの資源としての価値と八王子の将来について	6月22日
26	はちバス増発について	6月29日

拠点整備部　1件

案件番号	発　言　項　目	開催日
14	行政・民間が行っている子育て支援への関わり、考え方について	6月1日

まちなみ整備部　2件

案件番号	発　言　項　目	開催日
9	梅雨期等の集中豪雨対策について	6月1日
18	高齢者の住居の受皿について	6月22日

道路交通部　3件

案件番号	発　言　項　目	開催日
4	宇津木町～石川町谷地川沿遊歩道（街路灯設置要望）について	5月25日
27	歩行者が転ばないように歩道の改善を	6月29日
28	自宅の出入に不自由なガードレールについて	6月29日

学校教育部　8件

案件番号	発　言　項　目	開催日
3	具体的な少子化対策で未来の八王子を確実なものに	5月25日
7	だれでも食堂の運営報告について	5月25日
11	上壱分方小学校の通学路について	6月1日
13	市内のより多くの小学生に防災の大切さを知らせたい	6月1日
19	人を支えるっていいね	6月22日
23	職場体験について	6月29日
29	みんなで支え合い、安心して暮らせる地域を作るために	6月29日
34	小・中学生と保護者による認知症の方の見守りについて	6月29日

生涯学習スポーツ部　3件

案件番号	発　言　項　目	開催日
19	人を支えるっていいね	6月22日
32	八王子市営温水プールの利用許可のお願いについて	6月29日
33	八王子市の経済発展といじめ虐待がない社会の実現のための子育て応援企業の可能性と未来 について	6月29日

4. 意見･要望等及び市長答弁の要旨

テーマ「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」

【八王子駅南口総合事務所】 令和元年（2019 年）５月 25 日

案件番号	意見・要望等要旨　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
1	**【八王子に若者の居場所と社会参加のきっかけを作る活動からの要望について】** 昨年度、学生の「居場所づくり」「社会参加」「出会い」といった社会とつながるきっかけづくりを目的とした活動「まがりプロジェクト」を行い、大学生でも地域の役に立つ経験を得られた。 今年度は学生がより地域に出て、文化的体験や社会参加の経験を積むことと、地域のニーズに応えることを目的に、仕事と学生をマッチングする窓口を考えている。 この活動が市全体に広がり、八王子に集まる学生の居場所や社会とのきっかけづくりになることを応援してほしい。 （原 美香 様）	大学コンソーシアム八王子では、産学公連携を重点項目の一つとして、「学生発表会」や「学生企画事業補助金制度」などの事業を行い、学生の皆さんが市内の様々な場所に足を運び、市民や企業とともに活動することで、地域との結びつきを強め、八王子の持つ多彩な魅力を発見する機会を創出している。 また、市では「はちおうじ就職ナビ」を運営しており、社会参加のきっかけとして、会社見学やインターンシップの受け入れ可能な企業の情報を発信するなど、今後も内容の充実を図っていく。 目標実現に向け、市も応援していくので、引き続き市の施策にもご協力ください。	市民活動推進部 産業振興部
2	**【支え合いの輪を広げる為に】** ひとり親世帯や高齢者世帯の増加、非正規労働による就労の不安定化など、様々な要因による隠れた貧困が社会問題となっている。 相対的貧困率が高水準にあるが、市民の多くはそのことを知らないし、知っていても、どうして良いのかわからない。 そこで、支え合いを深める施策の一つとして、家庭にある食品を寄贈していただき、食品に困る方々に手渡すフードバンクを応援してほしい。 食品の寄贈箱を市役所や支所に設置し、食に困る方々を支える姿勢を積極的に示せば、市民の生活意識が変わり、みんなで支え合い、安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与することになると思う。 （森山 由実 様）	市では、子ども食堂やフードバンクなどの団体で構成されたネットワーク会議を定期的に開催し、情報共有や意見交換などを行い、ホームページや広報等で子ども食堂やフードバンクなどの活動を発信し、市民の理解を深める支援を行っている。 また、「子どもの生活実態調査」を行ない、食事や交流の場の提供による孤立の防止を図るため、新たに子ども食堂の運営支援も行っている。 一方、市職員の食品ロス削減、あるいは生活困窮者対策についての意識を高めるため、家庭では食べ切れない贈答品等の食品を持ち寄る仕組みづくりを進めている。 引き続き、フードバンク団体と生活にお困りの方をつなぐ橋渡し役を担い、フードバンク活動を市民の皆さんに周知するなど、市民主体の活動を応援していく。	福祉部 子ども家庭部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
3	**【具体的な少子化対策で未来の八王子を確実なものに】** 八王子市の人口は57万人で、2014年をピークに減少している。同様に労働人口も減ってしまうと、税収が減り、市の行政が立ち行かなくなる。財政を維持するためには、最低限の労働人口が必要だと思う。 では、どうしたら少子化は防げるのか、労働人口を増やして税収を持ち上げるためにはどうしたら良いのかというと、近隣の都市から転入者を増やすか、諸外国から移民を募るしかない。 施策の一つとしては、行政と大学と企業がコラボして、留学生を起用しながら市民のグローバル化や、そこに移民を募り人口を増やすことだと思う。 八王子には21の大学があり、留学生を活用して、まずインターンを市役所に募って、いろいろな国の産業経済を調査させ、市内の企業の製品サービスにどのようなものがあるか見きわめさせる。そして、その物品の輸出入、生産委託、生産サービスの供給を確立させる。道の駅で野菜の輸出とか輸入をしてもいいと思っている。 ただ、輸出や海外生産を考えた企業が八王子にあったとしても、言葉の問題で難しいと思うので、二つ目の施策として、ＩＢ（国際バカロニア）が提供する教育改革を行い、グローバル化に対応できる人材を育成すること、そして、海外から来られた方のご子息にも学校で日本語を教える体制を整えることが必要であると思う。 我々の子孫が未来でも活躍できるよう、外国人の採用や近隣の市町村からの転入も含めて、人口を増やすことを考えていかなければならない。 （菱山 徹 様）	国は、人口減少などに歯止めをかけるために「まち・ひと・しごと創生法」を制定した。 それに伴い本市では、国で策定した長期ビジョン及び総合戦略を勘案し、地方創生の取り組みとして「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題に対する方向性と、問題と向き合うために必要な施策をパッケージ化し、現在取り組んでいる。 さらに、市内には企業の研究開発拠点をはじめ、ＩＣＴ関連企業や、高度な技術を持つベンチャー企業などが集積しているので、このような地域資源を活かしながら「大学コンソーシアム八王子」では産学公の連携をはじめ、大学などを卒業した後も就職や定住など、本市で学んだ学生が様々な形で八王子と結びつくよう取り組みを進めている。 また、日本人のグローバル化は大変重要なことで、その実現に向け、子どものころからグローバルに活躍する人材を育成しなくてはならないと考える。 八王子市教育委員会では、教育振興基本計画の策定の中で「グローバルに活躍する人材の育成」についても検討していき、八王子市多文化共生推進プランでは「外国人市民も安心して暮らせるまちの実現」と「国際感覚豊かな市民を育むまちの実現」を基本目標として施策を展開している。 我々もできる限り人口を維持する取り組みを進め、様々なインフラや公共施設などにも手を加えながら、今の人口にふさわしいまちづくりを進めていかなければいけないと思う。	都市戦略部 市民活動推進部 産業振興部 学校教育部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
4	**【宇津木町～石川町谷地川沿遊歩道（街路灯設置要望）について】** 谷地川の遊歩道を夜に歩くと、足元が見えないので本当に危ない。 街路灯の設置をお願いしに東京都の合同庁舎に行ったが、ここは管理用通路だから、夜に街灯は要らないと言われた。 しかし、夜に何か災害があったら、避難する時には混乱してしまい、非常に危険。 町会ではいろいろな意見が出てまとまらないので、市からも要望してほしい。 （木下 純子 様）	ご要望の遊歩道については、谷地川の河川管理用通路なので、お話のとおり東京都の南多摩西部建設事務所が管理している。 管理用通路には、一般的に給電用の電源がないことから、照明設備の設置は難しいと聞いているが、まずは現地を確認し、地元の町会などにもこのような要望があるか聞きながら、南多摩西部建設事務所に要望として伝えさせていただきたい。	市民活動推進部 道路交通部
5	**【聴覚障害をもつ高齢者等を支援するための、相談支援の設置について】** 「障がいのある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例」が施行され、相談支援機関が５カ所設置されたが、そこでは手話の対応をしていない。 代わりに、聴覚障害者協会の事務所で相談を受けることがあるが、個人情報保護の観点から、あまり適切な状況ではなく、また、相談員自身も他に仕事があるので、安定して対応することが難しい。 このようなことから、ろう・難聴の高齢者に対する相談支援機関を設置してほしい。 （是枝 行子 様）	聴覚障害があり、コミュニケーションが困難な高齢者の支援については、関係所管や高齢者あんしん相談センター、ボランティアセンターと連携し、様々な相談に対する支援、情報保障ができるよう取り組んでいる。 新たに聴覚障害を持っている高齢者のための相談支援機関を設置することは難しいが、ろう・難聴の方の相談については、聴覚障害当事者同士のピアカウンセリング、手話コミュニケーションが取れる職員の配置などが重要であると認識している。 今後、ご提案を参考に、聴覚障害のある皆さんとコミュニケーションをとりながら、切れ目のない支援ができる体制について検討していきたい。	福　祉　部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
6	【高齢者福祉について】 今回のテーマは「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」とあるが、「みんな」とは小さい子どもから高齢者まで、八王子市民全員のことと思う。 高齢化が進み、介護認定者が増えれば、それを実現するのはとても難しく、介護認定者一人ひとりの状況に合わせた対応が必要となるが、市は具体的にどのような対策をしていくのか。 （前田 正彦 様）	本市では、要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしく生活を続けるために必要な医療・介護・予防・住まい・生活支援が、一体的に日常的な生活の場で提供されるよう、「地域包括ケアシステム」を推進している。 また、一人ひとりの状況に合わせた適切な介護サービスを提供するため、ケアプランを作成する介護支援専門員に研修を実施し、プランへの助言や指導などを行っているほか、介護人材の確保、定着、育成のための取り組みも進めている。 行政でできる範囲は限られるので、「地域包括ケアシステム」のような、できるだけ地域で支えていく仕組みを確立していき、市民の皆さんが地域で安心して暮らしていけるよう、引き続き努めていく。	福　祉　部
7	【だれでも食堂の運営報告について】 私は月に１回、高齢者、若者、子どもや子育て中の親など、幅広い年齢層を対象とし、会話を楽しみながら一緒に食事をする場を提供し、地域コミュニティの形成を図る活動に参加している。 だれでも食堂や子ども食堂の多くはフードバンクを利用しているが、生鮮食品は扱っておらず、限られた野菜、果物、乾物の提供にとどまっている。また、活動しているのはボランティアなので、市内の限られた場所での荷受けには大変な苦労がある。 十分な駐車場が確保できる廃校などを利用して、冷蔵庫や冷凍庫を置いていただき、市場や企業等の食材の共有化を図るなど、たくさんの食堂やそれを必要とする人につなげる手段を考えほしい。 （阿部 絹代 様）	市では、子ども食堂やフードバンクなどの団体で構成されたネットワーク会議を定期的に開催しており、今回提言いただいた内容も踏まえ、子ども食堂やフードバンクなどの活動における問題点についての意見交換を行い、問題点の解決に向けた検討を行っていきたいと思う。 また、食の支援を通して、生活困窮者を早期に支援機関につなげるための地域拠点についても、都の制度の活用も含めて検討している。 今年度から「地域づくり推進事業」にも着手しており、身近な中学校区を基本に、地域における課題を地域の皆さんと共有し、協働で必要なサービスや施設の再編などについても検討を進める。	福　祉　部 子ども家庭部 学校教育部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
8	**【市民同士の繋がりについて】** 私たちボランティアサークルは、市民の安全を守るため、市役所主催の生活安全パトロール、警察署と東部地区防犯協議会との防犯パトロールを中心に、多くの学生に参加を呼びかけ、各々月に一度パトロールを行っている。 ボランティア活動の際には、手を振って挨拶してくれる家族がいて、市民同士のつながりを感じることができた。 このような体験から、私たちができる一番の防犯ボランティアは、市民同士のつながりを増やしていくことだと思った。 （鈴木 陸斗 様）	市では「八王子市生活の安全・安心に関する条例」を制定し、安全・安心なまちづくりを推進しており、その取り組みの一つとして、八王子駅周辺の合同パトロールを毎月継続して実施している。 また、地域の皆さんの「自分たちのまちは自分たちで守る」という強い思いのもと、子どもたちの見守り活動をはじめとしたパトロール活動など、多くのボランティア活動をしていただいており、その市民力・地域力の強さは絶大なものと思う。 「市民同士のつながり」という視点は「町会・自治会の活動活性化の推進に関する条例」の基本理念にも掲げており、地域コミュニティが発展するためには重要なものであり、八王子市の一番の強みと考える。 この条例は、町会・自治会を、市との協働によるまちづくりのパートナーとしており、大学や事業者などの参加・協力で、町会・自治会活動の活性化を進め、より良いまちづくりを地域から行っていくものとなっている。 今後も、ボランティア活動を継続してもらい、町会・自治会等に協力してもらいたい。	市民活動推進部 生活安全部

テーマ「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」

【元八王子市民センター】　　令和元年（2019 年）６月１日

案件番号	意見・要望等要旨　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
９	【梅雨期等の集中豪雨対策について】 地球温暖化による異常気象で、降水量は年々増加傾向にあり、梅雨の終わりの集中豪雨で崖崩れや堤防の決壊などが発生し、市民生活に大きな影響を与えている。 現在、「八王子スポーツパーク」をつくる計画が進んでいるが、この場所は市のハザードマップによると土砂災害警戒区域、同特別区域に指定されている。 崩落をおこさないためには、上から降る水量だけでなく、地続きの山から押し寄せる地下水（湧水）なども考慮しなければならない。 八王子の自然を守るための災害対策を整備してほしい。 （飯田 朝夫 様）	防災対策では、自分の身は自分で守る「自助」、そして地域で助け合う「共助」、行政が担う防災対策である「公助」の連携が大変重要だと考える。特に災害初動期に非常に大きな役割を担うのが、自助と共助になるので、防災グッズの常備や防災の知識を身につけることも必要と思う。 「八王子市地域防災計画」では、台風などの風水害について、事前に進路予想などの情報収集を行い、避難所を開設する場合には、防災行政無線や防災情報メール、八王子ＦＭでの放送や市のホームページへの掲載のほか、広報車を巡回させるなど、多様な情報提供方法でお知らせしている。 災害対応というのは一様ではなく、状況に応じた対策が必要となるため、総合防災訓練などで様々な状況を想定した訓練を行い、また、市民の防災対応力を強化することを方針として、総合防災ガイドブックを全戸に配布した。 市でも、引き続き防災・減災対策を進めるとともに、災害発生時には市の機能が最大限発揮できるよう、努めていく。 また、最近は大雨やゲリラ豪雨などが頻繁に起こる状況なので、崩落の可能性のあるところなどをしっかり点検しながら、安全・安心なまちづくりに向けて、引き続き努力していく。	生活安全部 まちなみ整備部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
10	**【こども食堂の活動報告について】** 子ども食堂が主体となった協議体を立ち上げるため、市から学校や各行政機関などに「子ども食堂と連携を図るように」といった趣旨の通達を出したり、周知を図ったりしてほしい。 また、子ども食堂は個人運営のため、運営費の捻出が難しく、現在は寄附金、食料品寄附をいただきながら運営している。 このままでは閉鎖となり、子どもたちの行き場がなくなることになるので、市独自の助成金制度や、市で管理している賞味期限切れ間近の保存食や可燃ごみ袋の提供などの検討をお願いしたい。 （細田 明菜 様）	昨年６月に国は、困難を抱える子どもたちに地域の子ども食堂の情報が行き届くよう、福祉部局と教育委員会が連携し、子ども食堂の活動について情報共有を図ることなどを盛り込んだ文書を各自治体に通知した。 本市はこの通知を受け、市内の食堂を一覧にした「八王子食堂ネットワーク」のパンフレットを小・中学校や関係機関に配布し、理解と協力をお願いした。 また、人件費以外の子ども食堂の運営に必要な食材費、賃借料、会場使用料やごみ袋などの消耗品費等を対象とする都の補助金制度を、今年度から市の補助金制度「子ども食堂運営支援補助金」として、より使いやすく効果的な制度に変更した。	子ども家庭部
11	**【上壱分方小学校の通学路について】** 通学路として使っている陣馬街道の大楽寺交差点から上壱分方交差点までの500mの間に信号機や横断歩道がなく、子どもたちは車が来ない時に横断している。 高齢者や車椅子の方、乳母車を押している方なども横断していて、ちょっと危ないと感じる。 都や警察などと協議していただき、子どもたちや車椅子の方などの安全を守るため、横断歩道や手押しの信号の設置を検討してほしい。 （木川 金一 様）	市では交通管理者である警察署に対し、通学路や交通量の多い道路への信号機の設置を要望している。さらに通学路に関しては、学校から危険箇所としてあがった場所について、学校や保護者、地域、警察や道路管理者、教育委員会の関係者が現場で点検を行い、横断歩道の設置などの対策について検討している。 ただし、横断歩道は車道を歩くので、かえって児童が危険になる可能性の指摘もある。 また、信号機を設置した場合には、道路の渋滞が発生し、周辺の住宅用道路が抜け道として利用されることもあり、様々な観点から検討していく必要がある。	学校教育部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
12	**【元八王子町２丁目の地域猫活動について】** 私は元八王子町２丁目で「地域猫活動」をしていて、動物に優しいまち八王子となるよう、これからもできることをやっていきたいと思う。 市から野良猫の手術に対して助成金が出ているが、それ以上に費用がかかるので、ボランティアの負担を軽減するためにも助成金を上げてほしい。 また、八王子は自然が多く、動物を飼うにはすごく良いまちなので、動物愛護の拠点となるような施設をつくってほしい。 （野下 由希子 様）	市では、人と猫との共生社会の実現を図るため、平成 23 年度から飼い主のいない猫に対する不妊去勢手術の助成金制度を設けている。 実際の不妊去勢手術費用と市の支援とのかい離があるということなので、今後、検討させていただきたいと思う。 本市は平成 27 年に中核市に移行し、動物愛護の分野についても条例を制定するなど力を入れて取り組んでいるが、飼い主のいない猫をめぐる問題の多くは行政だけでは解決することが難しく、地域住民やボランティアの方々の力が不可欠である。 今後、行政としても必要な施策の展開をしていきたいと思う。	健　康　部
13	**【市内のより多くの小学生に防災の大切さを知らせたい】** 私たちは地域の防災活動や東日本大震災の被災地の応援のため、「ちーむべりぃぐっど！」という団体を結成した。 主に子どもを対象とした防災活動を行っているが、子どもから地域へ、そして大人へ防災の輪が広がっていくようなまちになってほしいと思う。 今後もより多くの小学校で防災教室を行いたいので、私たちの広報活動にご協力いただき、また、市などで実施する防災訓練やイベントに僕たちを使ってほしい。 （飛川 優 様）	子どもたちが防災についての基礎的・基本的な事項を理解して、安全に関して自分で正しく対応するための思考力、あるいは判断力や行動力を身につけること、災害時に進んで他人や地域社会の安全に役立つことができるような能力や態度を養うことは非常に重要であり、特に、いつ、どのような規模で発生するか予測できない大災害に対しては、子どもたちが瞬時かつ臨機応変に安全な行動がとれる危機回避能力の育成が必要である。 市としても、各市立学校のホームページや市教育委員会公式フェイスブックなどを通じて、皆さんの取り組みを広く市民に周知するなど、活動内容の周知に積極的に協力するので、ぜひこのような活動を続けていただきたいと思う。	生活安全部 学校教育部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
14	**【行政・民間が行っている子育て支援への関わり、考え方について】** 女性主導で、子連れでも利用できるサービスがたくさんあるのに、活動の情報が探しにくいので、ママ同士の情報共有の場所としてフェイスブック上に「八王子ママの会」というグループを立ち上げた。 それらを通して見えてきた潜在ニーズは、情報共有の場がすごく必要とされていること、人として子育て以外の話ができる社会的なつながりを求めていることだった。 今後、八王子で子育てをしたいと思われるように、市が子育てママが抱えている潜在ニーズをいかに拾い上げ、民間と行政をどうつなげていくのか、考えを伺いたい。 （山本 由佳理 様）	市は「子育てひろば」事業を展開しており、子育てママのための様々なイベントを実施するほか、子育て情報を共有できる場を提供している。 イベントでは保護者からの様々な相談への対応をしており、内容に応じては関係機関につなぐなど、子育て支援を中心としたソーシャルワークを実施している。 また、中学生が赤ちゃんと触れ合う「赤ちゃんふれあい事業」では、中学生が命の大切さを改めて学ぶ場であるとともに、事業を通して子育てママが社会とのつながりや社会貢献できていることを実感できるものになっている。 ほかにも、子育て世代やシニア世代等の多世代が集い、交流できる「まちなか交流・活動拠点ｋｉｋｋｉ＋」を開設し、イベントやワークショップだけでなく、子育てママ・パパの交流会、展示会、大人に向けた学びの場など、様々なイベントスペースとして活用いただいている。 引き続き、地域団体と協力しながら子育て支援の充実を進めていきたい。	子ども家庭部 拠点整備部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
15	**【オンガタマルシェとオンガタ銀座商店会立ち上げについて】** 　地域の活性化を目的として、恩方地域住民と地域商店との交流の場となる「オンガタマルシェ」を開催した。 　とても反響があったので、長期的なコミュニティや連携をつくるため、また、地域の魅力をみんなで考え発信するために恩方地域に商店会を立ち上げた。 　町会活動にも商店会として参加させていただきたいので、町会の方々と話し合い、コミュニケーションをとりながら、地域に何か残せる形をつくりたいと思う。 （門脇 大輔 様）	恩方地区を地域住民との交流の場とするために、新たな商店会組織を立ち上げ、昨年開催した「オンガタマルシェ」では多くの来場者でにぎわい、地域の活性化に大きく寄与したことは所管から伺っている。 　イベントを通して地域の皆さんがつながることが、顔と顔の見える関係となり、本日のテーマでもある「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」の取り組みなのではないかと思う。 　恩方地域の魅力を伝えたい、恩方をもっと元気にしたいという門脇さんをはじめ、地域の皆さんの思いは、本市のブランドメッセージ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」に通じるものを感じる。ロゴマークなどを活用していただき、八王子の魅力を発信し、地域にさらなるにぎわいをもたらせてほしい。	都市戦略部 産業振興部

テーマ「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」

【由木東市民センター】　　令和元年（2019 年）６月 22 日

案件番号	意見・要望等要旨　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
16	【ニュータウンの資源としての価値と八王子の将来について】 住民主体による訪問型サービス団体を運営しているが、現在、高齢化に待ったが効かない状態であることを、地域で活動して感じる。 他市ではモデル事業として、まち全体を行政、民間介護事業者、住民が一体となってつくる団地をスタートさせたが、これが他市でできるのなら、多摩ニュータウンの南大沢や掘之内地区などについても、市として早急に検討してほしい。 高齢化したまちの高齢者同士は支え合うことができなく、共倒れしてしまう。安心して暮らせる地域は、やはり若者が増えなければ可能にならない。 これから空き家が増える中で、八王子の大学を選択すれば、住居の優遇があるなどのメリットを打ち出し、大学生を優先的に住まわせば、大学都心回帰や存続の手がかりにもなるし、学生時代だけでなく、子育てや自分の親の介護、ゆくゆくは自分の老後を想定した有意な取り組みがあれば、住み続けたい動機にもつながる。 新しい自治会の条例も制定されたが、どうしたら若者が自治会に参加したくなるのか。具体的に新しい人を取り入れる政策はあるのか。他市での新しい試みに対して、もし八王子で可能でないとしたら、その理由を具体的に知りたいし、また、どうすれば可能になるかも知りたい。 （廣田 晶子 様）	多摩ニュータウン八王子地域は、入居から 40 年以上が経ち、高齢化や住宅の老朽化の進行状況などを踏まえ、持続可能なまちにすることを目的とした「八王子市多摩ニュータウンまちづくり方針」を今年の３月に策定した。 資産の多様な利活用としては、社会情勢や地域のニーズ、住宅事業者の意向等を捉えながら、地域住民、大学など、多様な主体と連携し、有効な利活用を促進する考えで取り組みを進めており、ＵＲ都市機構の賃貸団地で利用の少ない集会所を借りて、学童保育所の運営をはじめたり、学生が団地に住みながら、住民同士の多世代交流を促す「地域のコミュニティ活動」を支援したりしている。 サービス事業としては、住民等が主体となり、高齢者の日常生活における多様な困りごとを支援する介護予防・生活支援サービス事業を実施したり、地域で学生を育てる視点では、大学コンソーシアム八王子や各大学等と連携し、学生の地域貢献活動を支援したり、Web サイト「はちおうじ就職ナビ」を立ち上げ、学生の就職活動に結びつく取り組みを行っている。 ご提言のあった多摩ニュータウン八王子地域の整備については、「八王子市多摩ニュータウンまちづくり方針」に基づき、住みなれた地域で自分らしく生活を続けるために必要な医療・介護・予防・住まい・生活支援が、一体的に日常的な生活の場で提供されるよう、「地域包括ケアシステム」の推進、あるいは大学、ＵＲ都市機構、東京都住宅供給公社といった住宅事業者との連携強化等を図りながら、さらなる可能性を検討していきたい。	市民活動推進部 福祉部 産業振興部 都市計画部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
17	**【ゴミ屋敷対策について】** ごみ屋敷条例は公団公社、都営マンションなどにも適用される条例なのかを知りたい。私の住む団地では、犬やネコを飼ったり、掃除をしない人が多くなり、悪臭や衛生上の問題を抱えているので、条例が適用されると非常にありがたい。 それと、意見書を提出したが、条例をまだ見ていない。４月１日には条例が出ているので、何らかの形で伝えてほしい。 （久保田 稔 様）	本市では平成 27 年に「八王子市動物の愛護及び管理に関する条例」を施行し、飼い主の責任として、飼う場所の周りを取り巻く環境に配慮し、近隣住民の理解を得ながら、人間と動物が一緒に生きていくことができるように努力しなければならないと規定している。さらに猫の飼い主の遵守事項として、感染症の予防及び不慮の事故を防止するため、室内で飼うことに努力しなければならないと条例で規定している。 ご相談の件は、市、保健所、住宅の管理会社、自治会の方と連携し、飼い主に対して、動物の愛護並びに適正な飼い方及び保管について、必要な情報の提供、指導、助言を行い、改善できるよう努めていく。 また、ごみをため込むことで、ねずみや害虫、悪臭が発生したり、火災の恐れがあるなど、近隣の生活環境を著しく悪化させているごみ屋敷が問題となっているが、本市では「八王子市住居等における物の堆積等に起因する不良な生活環境の改善に関する条例」、いわゆる「ごみ屋敷条例」を平成 31 年４月に施行し、対策を開始した。 この条例は、公的住宅・公営住宅においても適用されるが、対象となる案件を調査し、条例適用の有無を判断している。	健　康　部 資源循環部
18	**【高齢者の住居の受皿について】** 高齢者が住宅を借りる時には、ほとんどといっていいほど借りられない。アパートにしても保証協会があるのに、その前で不動産屋が受け付けない。 ある程度経済力があれば、高齢者でも住宅を借りられると思うが、不動産屋はその人に対しても門前払いだった。 市と業者との間に、一つの受け皿となるものを作ってもらいたい。 （久保田 稔 様）	市では、高齢のために住宅を確保することが困難な方へのセーフティーネットとして、公営住宅の運営と民間賃貸住宅への入居支援を行っている。 また、不動産団体、社会福祉協議会等と連携して、居住支援協議会を設置し、入居に関するサポート制度を案内するとともに、住まいさがしでお困りの方の相談に対応する不動産店を「居住支援協力店」として紹介する取り組みもしている。 この制度についてはまだ十分周知されていない面もあるので、引き続き広報やホームページ等で周知に努めていきたい。	福　祉　部 まちなみ整備部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
19	**【人を支えるっていいね】** 私が足をけがして松葉杖になった時、たくさんの人に助けてもらった。 席を譲ってもらったおじいさんに「足が治ったら、たくさんの人を支えてくださいね。」と言われ、その日から何か支えられることはないかと考えた。 ある日、耳の不自由な人に話しかけられ、図書館まで道案内をした時、いろいろ手話を教えてもらい、耳が不自由な人ともたくさん会話をしたり、笑ったりして、すごく楽しかった。 今、私を支えてくれる人に感謝し、困っている人がいたら、助けられる人になりたいと思った。　　（細川 美響 様）	市では「八王子市親切都市宣言」を行い、親切運動に取り組んでいる。 親切な行いは誰もができることではなく、非常に勇気がいることだと思う。まちの中でも何気ない思いやりや心温まる親切を見かけることがある。 そのような親切な行いを受けたり、見かけたりした方からご推薦をいただき、親切な行いをした方に対して、「八王子親切会」では毎年、感謝の気持ちを込めて「親切表彰」を行っている。 また、本市では、平成 27 年２月に第二次八王子市教育振興基本計画『ビジョンはちおうじの教育』をつくり、教育目標の一つに、自分を大切にして、他人を思いやる心を育てることを目指す取り組みがあり、とても重要なことだと位置づけている。 そのほか市では、家庭で社会のマナーや基本的な生活習慣、学習習慣を子どもに身につけさせる「家庭教育」を、より市民の皆さんに親しみを持っていただくように、「いえいく」と呼ぶこととした。 細川さんも「困っている人がいたら助けられる人になりたい。」とのことでしたが、これからもこの気持ちを持ち続けていただき、市としても、引き続き自分を大切にし、他人を思いやる心を育てることに取り組んでいきたい。	市民活動推進部 学校教育部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
20	**【難聴による補聴器関連について】** 私は70代後半ごろ難聴と診断され、補聴器しかないと言われた。 補聴器はかけた瞬間からよく聞こえるというものではなく、3年前に購入し、何十回となく調整を繰り返したが、よく聞こえなかった。昨年12月に別のメーカーのものを試聴したが、あまりよく聞こえなく、今月からまた別のメーカーの補聴器を試聴し始めたが、費用が高く、私にとっては負担が大きい。 家族や地域の人との良好なコミュニケーションには補聴器が必要で、認知症の予防にもなる。難聴者の補聴器購入に対して補助金の支給をお願いしたい。 （升田 嘉勝 様）	本市では、聴覚の障害で身体障害者手帳を取得されている方、または難病患者等で医師の診断書等をお持ちの方を対象に、補聴器を購入する際の助成制度を実施している。 自己負担額は、原則1割負担となるが、所得によっては支給対象にならない場合もあるので、支給条件や身体障害者手帳の申請方法などについて障害者福祉課までお問い合わせいただき、補聴器購入前に市へ事前申請してほしい。	福　祉　部
21	**【堀之内里山保全地域でのボランティア活動について】** 私は堀之内の里山保全地域で里山保全活動のボランティアをしている。 この保全地域の近くにはトイレと水場がなく、毎回、かなり距離の離れた公園まで行く必要があり、特に夏場に汗水垂らして活動していると、熱中症の危険性もあり、水場とかトイレが欲しくなる。 ぜひ、この保全地域に水道とトイレの設置をお願いしたい。 （豊田方 威 様）	皆さんが気持ちよく活動するために水道とトイレは必要な施設であると考えるが、保全地域は良好な自然を残していく地域であるという前提に加え、保全地域内の土地は大半が民有地となっているので、市単独での整備には難しい面がある。 そのため、保全地域の指定を行っている東京都と十分に相談していきたいと思うが、トイレの設置は非常に難しいと思われるので、堀之内の寺沢里山公園内のトイレを利用していただきたいと思う。	環　境　部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
22	**【自治会結成･加入率向上に向けた今後の施策について】** 私たちは、南大沢地区で防災を通じた団地コミュニティの活性化を大学院の研究の一環として取り組んでいるが、何より自治会結成のハードルの高さを実感した。 しかし、少子高齢化に突入する中で、地域のセーフティーネットとしての自治会は、今後、より重要になると考える。 そのような中、「町会・自治会活性化の推進に関する条例」が施行され、どのような支援を住民組織に行っていくのか伺いたい。 また、自治会をはじめとする住民組織が、住民にとっての居場所になることが、今後の自治会運営を考える上で重要となり、加入率向上につながると思う。 自治会の加入率向上に向けた市の取り組みについても伺いたい。 （田中 翔太 様）	ご指摘とおり「地域のセーフティーネット」として今後ますます町会・自治会の役割は重要になると認識している。 町会・自治会の活動がより一層活性化し、地域が元気になることを期待して「八王子市町会・自治会の活動活性化の推進に関する条例」を本年４月に制定した。 本条例で重要なことは、市民の皆さんに町会・自治会活動の重要性を再認識していただき、理解を深め、活動への参加・協力・加入といった行動に移していただくきっかけとなることだと思う。そのため、昨年に続き「広報はちおうじ」の町会・自治会特集号で活動紹介なども行い、転入者や外国人、新入生などにチラシや冊子等を配布し、加入促進に関して周知・啓発を進めている。また、町会・自治会連合会と協力して、「町会・自治会加入促進ハンドブック」を作成し、加入促進活動への取り組み事例などを紹介し、活動の目安として活用していただいている。 町会・自治会への支援については、町会・自治会で管理する掲示板の新設、あるいは修繕を助成する制度を創設した。さらに、町会・自治会の皆さんが、コミュニティの醸成、あるいは地域課題の解決に向けた取り組みに注力できるよう、ご意見を聞きながら、加入促進に向けた支援メニューについても、引き続き検討していく。	市民活動推進部

テーマ「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」

【由井市民センター】　　令和元年（2019 年）６月 22 日

案件番号	意見・要望等要旨　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
23	【職場体験について】 私は、中学生が行う職場体験、特に福祉の職場体験を継続的に行うべきだと思う。 継続することで、従事する人が減っている福祉の仕事に興味を持つ人もいるかもしれないし、ずっと関係が続けば、災害が起きても協力して避難することができると思う。 （五十嵐 杏月子 様）	八王子の市立中学校では、保育園や企業、商店、福祉施設などの協力をいただき、職場体験を行っている。多くの学校では「総合的な学習の時間」の中で教育課程の一つと位置づけており、職場体験のほかに「身近な生活に関する学習」、「日本の伝統・文化」などの特色ある教育活動も行っている。 職場体験を長く継続的に取り組めば、効果が高いことはお話のとおりであるが、学校の状況や事業者の受け入れ態勢の問題、限られた時間数の中で、ほかにも多くのことを学んでいただくことから、現状では難しいが、職場体験の意義については引き続き啓発を行う。 また、八王子市社会福祉協議会では、学生の皆さんに福祉活動に対して興味を持っていただくため、夏休みを利用した体験ボランティアを開催しているので、ぜひ、このようなイベントに参加していただければと思う。	福祉部 子ども家庭部 学校教育部
24	【見まわり活動について】 学生がひとり暮らしの高齢者の家を見まわる取り組みをしたらどうかと思う。 高齢化が進んでいる中で、定期的に見まわれば、災害のときも助け合えるし、孤独死なども防げる。また、高齢の方が困っていることを代わりにできるし、見まわる側も接し方だけでなく、伝統的な文化などについても学べる。 社会の形も変わり、災害などの危険も増えている今、新しい活動を通して、地域のつながりを強くするべきだと思う。 （五十嵐 杏月子 様）	ボランティア活動などにより、学生の皆さんや地域にお住まいの方たちが、世代を超えて高齢者の見守り活動などへご協力いただければ、災害時の助け合いも含め、地域のつながりが強くなると思う。 高齢者などを見守る取り組みとしては、民生委員、児童委員による「日常の声かけ・見守り活動」や、ごみなどを収集する際に「声かけ」する「ふれあい収集」などを行っているが、ご提案も参考にしながら、ひとり暮らしの高齢者に対する見守りについても引き続き推進していきたいと思う。	福祉部 資源循環部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
25	**【生ごみ資源化の補助金について】** 最近は段ボールコンポストなどの取り組みも進み、生ごみの堆肥化に対する市民の関心も高まり、年度途中に補助金がなくなることもあるので、予算額をもう少し増やしてほしい。 また、段ボールコンポスト以外の堆肥化として、臭いや虫を防ぐのに有効なバケツとぼかし（発酵促進剤）を使う方法があるが、最初にバケツと一緒に買った時にしか補助金が出ないので、継続的に堆肥化に取り組むためにも、ぼかしを購入する際の補助金を２回目以降も助成してほしい。 （土方 彰子 様）	生ごみの資源化に対する補助金については、生ごみの減量・資源化を目的に「生ごみ処理機器等購入費補助金」を交付しているが、財源に限りがあるので、今後実施するアンケート調査を踏まえ、効果的な制度となるよう、予算額や補助金額を再検討していく。 また、補助金制度の目的は、生ごみの減量・資源化であり、いろいろな使い道がある発酵促進剤については、補助金の対象となる生ごみ処理機器に使用することがわかる、たい肥化容器と同時申請の初回のみとしている。	資源循環部
26	**【はちバス増発について】** 片倉台は75歳から80歳前後の方が多く住んでいて、朝早くから「はちバス」を利用して病院に通う方も多い。 ところが「はちバス」は２時間に１本しかなく、もっとたくさん出てほしいという要望が非常に多い。 せめて１時間に１本増発していただきたい。 （土方 彰子 様）	「はちバス」は４コースで運行しており、片倉町を通る東部コースの利用者が多いことは認識しているが、はちバス全体の収支率が低下している状況もあり、運行を継続していくためにも現時点では増便することは難しいが、最近では北西部コースの分割、あるいは運行ダイヤの見直しなど、利便性向上に向けた取り組みを行っており、引き続き利用サービスの向上に取り組んでいきたいと思う。	都市計画部
27	**【歩行者が転ばないように歩道の改善を】** 杖をついて歩く歩行者が多くなっているが、歩道の一部が車の出入りのために真ん中あたりから切り下げられ、平らになっていないので、そこに杖がかかると転びそうになり、非常に不安定で歩きにくい。 安定して歩道を歩行できるよう平らな部分を広げてほしい。 （土方 彰子 様）	既にある歩道部分の幅が狭く、また、住宅の出入り口の間口が連続している場合などでは、歩道の平らな部分を広げるということは構造的に困難ですが、将来的に道路拡幅工事を行う場合には、歩道部分のバリアフリー対応を行うなど、引き続き歩行者に優しい道路づくりを目指していく。	道路交通部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
28	**【自宅の出入に不自由なガードレールについて】** 家の前の歩道にガードレールがあり、タクシーが来た場合などは、家の前から乗ることができないので、ガードレールのない隣家の前まで行っている。 みんな体の調子も悪いし、先日、ご主人が亡くなった時に、お棺を出すのに不自由だったという人もいて、ガードレールを切ってほしいという要望も言っていた。 （土方 彰子 様）	横断抑止柵は歩行者が横断歩道以外の場所を渡ることを抑制するために設置している。 これは歩行者の安全を第一と考え、歩行者と自動車の通行を分離するため設置した施設であり、ご要望のあった個人の歩道から車道への出入りのために撤去することはできないが、特例として、車の出入りのために自費にて開くなど、様々なケースがあるので、詳細について道路交通部管理課にご相談ください。	道路交通部
29	**【みんなで支え合い、安心して暮らせる地域を作るために】** 八王子で生活するようになって特にうれしいのは、農産物の宝庫で、品質、鮮度の良いものを買うことができる。 しかし、豊作の際には収穫したものを畑に埋め戻すことなどもあり、農家にとってはとてもつらいことだと思う。 そこで、提案として乾燥野菜をつくることができないかと思う。乾燥野菜は保存もできて使い勝手が良く、非常時や震災時には被災したところに届けることができ、何より無駄が出ない。農家にとっても多少の収入につながり、ボランティアに近い形ではあるが雇用もうまれる。 最もすぐれたフリーズドライ製法では機械の価格の高さがネックになるが、できることなら大手の資本に頼るのではなく、市民が少額を出し合い、協議会のようなものをつくり、運営できればと思う。 （市川 一恵 様）	本市では、農業を大事な産業と位置づけており、収穫したものを畑に埋め戻すということではなく、そのまま活用することを考え、困っている方を支援している福祉施設や子ども食堂などへ寄付するなどの方法を、市民の皆さんに継続して情報発信している。 さらに、今年度給食センターを２カ所建設しており、地元農家や市内業者から食材を優先的に調達していくので、食材の供給先拡大に貢献できると考える。 また、災害の状況を考慮した食品として想定される備蓄食としては、非常時備蓄用のフリーズドライ加工食品、缶詰、レトルト食品が考えられ、非常時での使い勝手、賞味期限、コスト、ごみ処理などを考慮する必要があり、非常時のための備蓄に乾燥野菜が有効でもあるが、備蓄をする方は、使い勝手などを総合的に判断していくことが重要であると考える。 いただいたご意見も参考にしながら、引き続き農業振興に取り組んでいきたい。	生活安全部 子ども家庭部 産業振興部 学校教育部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
30	**【若い力の活用について】** 私の通う学校では地域への貢献活動も活発で、先日は緊急医療救護所の設置運営訓練に参加した。 訓練には他の大学の学生も参加しており、もしもの時には医療機関の関係者だけでなく、もっと若い力を活用できると感じた。 八王子市は学園都市であり、若い人が多く在学・在住しているので、市として学生にもっとアピールして、安全で安心なまちを目指す方策を進めてほしい。 （白井 竜ノ介 様）	本市は全国有数の学園都市であり、この恵まれた環境のもと、大学、企業、市民との連携、協働による学園都市づくりを進めている。 現在、本市が被災した場合に備え、八王子市、八王子消防署、大学の三者協定である「災害時ボランティアに関わる相互協力に関する協定」を複数の大学と締結した。 また、大学のボランティアサークルなどに所属する多くの学生が、東日本大震災や熊本地震などの復興支援に独自で参加している。 今後、本市が被災した際の学生との協力関係については、大学コンソーシアム八王子などを通じて、より効果的な方法を各大学などの意見も伺いながら考えていきたい。	市民活動推進部 生活安全部 医療保険部
31	**【生活の足としてのクルマの故障予防について】** 最近、高齢化社会で免許を返納するというニュースを多く聞くが、現状としては、車が生活の足として欠かせない方もたくさんいる。 メーカーでは安全装置をつけたり、緊急時には救急車も呼べる車なども発売しているので、そのような車を市からも推奨することで、故障や事故を減らして快適に生活することを目指してもらい、さらには環境に優しくできることを呼び掛けてほしい。 （白井 竜ノ介 様）	自動車における市の環境施策については、ホームページ上で急発進、急加速をしないなど、環境に配慮した運転である「エコドライブ 10 のすすめ」を呼びかけている。 また、八王子市地球温暖化防止活動推進センターでは、交通分野の省エネとしてエコドライブの疑似体験を行っているほか、セミナーを実施し、エコドライブの普及啓発を行っている。さらに、当センターでは、電気自動車や燃料電池自動車の普及促進のための東京都の補助制度をホームページ上でＰＲしている。 今後も環境や安全に配慮した施策について、市が率先して取り組んでいく。	環境部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
32	**【八王子市営温水プールの利用許可のお願いについて】** 自治会・町会と協力して60歳以上の高齢者向けに、2本のポールを活用する「ノルディックウォーキング」という活動を行っている。 参加者の皆さんは高齢に伴う足・腰の不安を抱えており、健康づくりやリハビリの一環として参加している。 中でも病状の重い方は水圧と浮力を使えばうまくバランスがとれるので、水中でポールを使用することを計画しているが、市のプールでは安全性の問題から利用が許可されない。 より良いプログラムを開発したいと思うので、水中での使用を許可してほしい。 （笹渕 勝彦 様）	多くの市民の皆さんに自らの健康維持、あるいはスポーツ活動の場として市営プールを活用していただいている。 しかし、コース数に対して利用者が多く、団体への貸し切り利用やウォーキング専用コースを設けることができないところもあり、現在、トラブルの原因となるため、ビート板や浮力を得るための補助用具（水泳ヘルパー）、水泳用ゴーグル以外のプールへの持ち込みは原則お断りしている。 ご提案いただいた水中専用ポールの使用については、今まで通りの対応とさせていただくが、他市では利用が許可されているというお話も聞いたので、施設環境や条件などを踏まえ、今後の検討課題にさせていただきたい。	医療保険部 健康部 資源循環部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
33	**【八王子市の経済発展といじめ虐待がない社会の実現のための子育て応援企業の可能性と未来について】** 私は八王子で事業を行っており、地域における子育て、子育て支援、子育てしながら働きやすい環境づくり、そのほか子どもに関する独自の取り組みがある子育て応援企業に登録している。 現在、児童虐待が認知されることも多く、そこに子育て応援企業として貢献できる可能性があると思う。 なぜなら、市でもいじめや虐待に関しての様々な取り組みや会議が行われているが、キーワードとして「親教育」ということがあり、親はそもそも週 40 時間企業の中で働いているので、事業活動の中で親教育をするしかないと思う。 企業内は今、モラハラ、パワハラ、様々なハラスメントの問題と向き合っており、社員育成を通じた人材育成は親教育にもつながり、子どもに対するいじめ、虐待などをなくすという子育て応援企業ならではの活動にもつながるのではないかと思う。 市には子育て応援企業というすばらしい枠組みがあるので、人材不足や育成のことに悩んでいる多くの企業にこのような情報を伝え、企業が最終的に親教育につながる活動ができるよう支援してほしい。 （深沢 宗主 様）	本市では、子育て・子育ち支援に積極的に取り組むことに賛同していただいた数多くの企業に「子育て応援企業」として登録していただき、地域の子育て支援活動や子育て親子向けのサービスの提供をしていただいている。そのため、市からは企業による子育て・子育ち支援に関する取り組みの情報を提供している。 多くの企業に子育て応援企業として活躍していただいているが、活動内容をお互いの企業同士で共有し、それぞれの活動に連携させていくような場が少ないことは、我々も認識している。 今後は、子育て応援企業の皆様からもご意見をいただき、企業同士を連携させるためのネットワークづくりや、関連機関との連携強化を図っていきたいと思う。 本市では、いじめ問題についてもしっかりと取り組むということで、平成 29 年３月に「いじめを許さないまち八王子条例」を制定した。 また、全ての教育の原点でもある家庭教育を「いえいく」と呼び、地域の子どもと子育て家庭を支援する取り組みも推進していく。 八王子で親子を温かく見守る企業・団体が増えていくことで、本市がめざす「子どもにやさしいまちづくり」が実現するよう、我々もしっかりと周知しながら、ますますのお力添えをお願いしたいと思う。	総合経営部 子ども家庭部 生涯学習スポーツ部

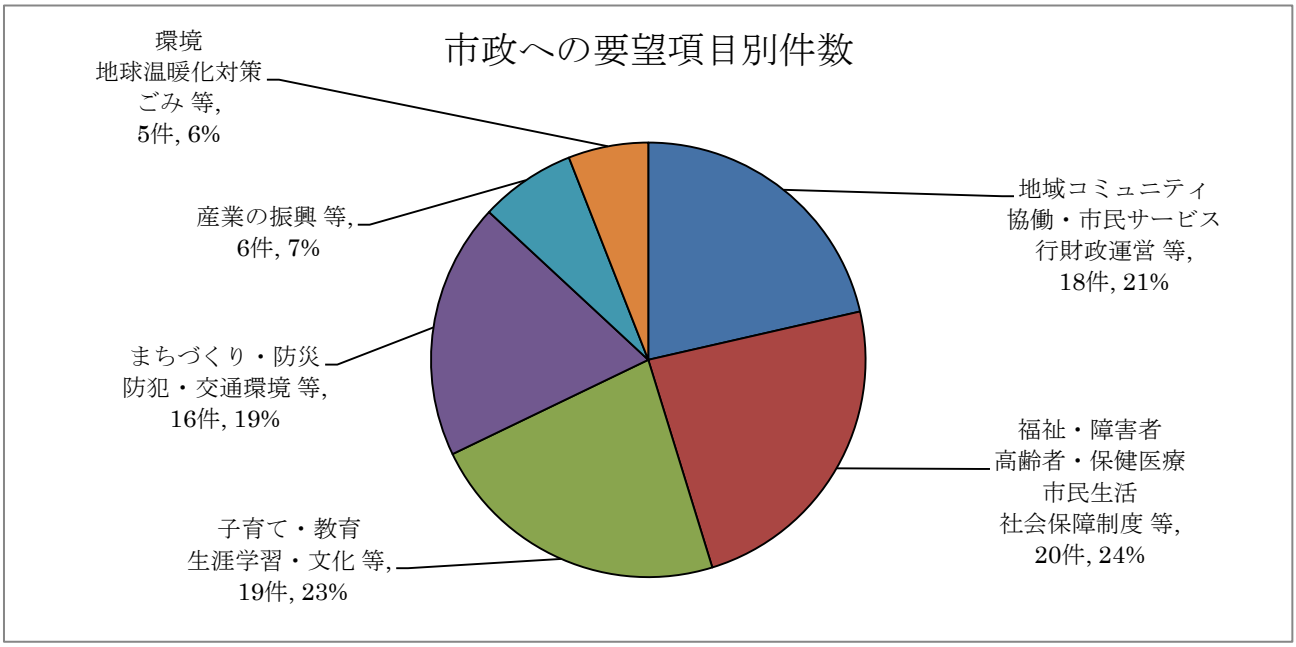
案件番号	意見・要望等要旨　　（発言者）	市長答弁要旨	担当所管
34	**【小・中学生と保護者による認知症の方の見守りについて】** 高齢者あんしん相談センターで認知症サポーター養成講座を行っているが、参加される方は高齢の方が多く、小・中学生やその保護者はなかなか参加できない、参加していないという現状がある。 これからは、認知症の方を地域で見守る時代に突入すると思うので、認知症の方を見かけたときの対処方法などを知っていると、初動の対応が違い、悲惨な事故などを未然に防ぐことができる。 また、親の介護が子育てと同時になる方もいるので、そういう意味でも子育て世代が知るべきではないかと思う。 （湯浅 直樹 様）	平成 30 年度には出前講座として、児童向けに寸劇を取り入れるなどの工夫をしながら８校の小・中学校で認知症サポーター養成講座を実施した。 認知症については、今、社会問題化しており、認知症への理解の重要性は我々も認識しているが、小・中学校の段階で認知症だけを焦点化し、教育課程上に位置づけることは難しいが、障害や福祉に関する全般的な内容について学習する機会があるので、地域の取組、民間や公的機関の講座などを通じて総合的に認知症に対する啓発を図っていきたい。 実際、由井第三小学校ではＰＴＡの方々が中心となって認知症サポーター養成講座を開催した実績があり、今後、地域ぐるみの活動が広がってほしいと思う。	福　祉　部 学校教育部
35	**【子どものために集うまちづくりについて】** 由井第三小学校では放課後子ども教室を行っているが、保護者ができないので、社協の協力をいただきながら、シニアサポーターの方々に見守りしてもらっている。 もっと、地域の方へ直接呼びかければ、地域の人材発掘にもつながると思う。 人材発掘について、市としてどのような取り組みがあるか、どういうものを使えばそのような人材にめぐり合えるか教えてほしい。 また、由井市民センターにＣＳＷ（コミュニティソーシャルワーカー）が６人配置されているが、地域にもっと増えれば、もっとサポートしてもらえると思う。地域のつなぎ役という意味では配置の充実をお願いしたい。 （湯浅 直樹 様）	由井地域には、昨年、地域福祉推進拠点の開設をして、地域が抱える福祉課題の解決に向けた、地域住民との連携した支援に取り組んでいる。 また、地域で活躍の場を求めているシニア世代の方々に「勉強お助けサポーター養成講座の説明会」を開催したところ、当日は定員を超える方のお申し込みをいただき、地域にはいろいろな活動に興味がある方が多いことを感じた。 今後もこのような講座を通して、いろいろな活動に興味がある方を把握し、情報提供することで、地域に元々いる方の力が地域で活かせるような取り組みを行っていきたいと思う。 引き続き、コミュニティソーシャルワーカーは地域の人材発掘や地域の人材をつないでいく役割を果たしていくが、人員については事業の成果を踏まえて検証していきたいと思う。	福　祉　部

5. 過去の提案等取り組み状況

平成 30 年度（2018 年度）「市長と語る」の提案等取り組み状況

開催実績

開　催　日	会場・メインテーマ	延べ参加者数（人）	発言者数（人）	発言項目数（件）
５月 26 日	八王子駅南口総合事務所 「八王子のまちづくり」	128	8	10
６月２日	石川市民センター 「石川地域のまちづくり」	64	7	8
６月 23 日	横山南市民センター 「館地域のまちづくり」	64	7	9
６月 30 日	南大沢市民センター 「南大沢地域のまちづくり」	75	7	11



次ページから、平成 30 年度（2018 年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取り組み状況の一例をご紹介します。

＜意見＞　**「高齢化の為、自治会運営の一部を外部に委託」について**

自治会運営の一部を協力してもらえる人がほしい。団塊の世代は非常に経験も豊富で、人数も多いので、少ない報酬で手伝ってもらえると助かる。

（江端　克之　様）

≪市長発言（当日）≫

市では、定年退職後等における生きがいの充実や、社会参加の機会拡大、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とし、八王子市シルバー人材センターを支援している。センターでは市内在住で60歳以上の健康で働く意欲のある会員の皆さんが活躍している。

自治会ごとにセンターへ業務を依頼することは可能なので、ご相談いただければと思う。

また、東京都の「地域の底力発展事業助成制度」や、町会で事務員を雇い、集会所に常駐させて町会事務を行うなど、団塊世代の人材活用を含めた事例についても、協働推進課にご相談をしていただければと思う。

【その後の対応】

高齢者の生きがいづくりを目的とした就業機会を提供する公益社団法人八王子市シルバー人材センターの運営支援・指導等を行うことで、高齢者の社会参加を促進するため、「シルバー人材センター運営費補助金」として、平成30年度（2018年度）に引き続き、令和元年度（2019年度）予算においても継続して予算計上している。

都の「地域の底力発展事業助成制度」を活用していただくよう、「2019年度地域の底力発展事業助成ガイドライン」を各町会に送付した。また、町会で事務員を雇うことについて相談があった場合には、既にその取り組みを行っている町会（めじろ台町会、片倉台自治会など）をお伝えする。

＜意見＞　**「学生の町、若者の町－八王子の再認識」について**

八王子市には多くの学生がいるので、学生に八王子の観光大使になってもらい、八王子の良さをインターネット・ＳＮＳで出身の都道府県に発信してもらうと良い。

（横山　大生　様）

≪市長発言（当日）≫

シティプロモーションの取り組みとして、本市の持つ多彩な魅力を、特設サイトや魅力発信パンフレット等を通じ幅広く発信している。

また、大学コンソーシアム八王子や八王子学生委員会が組織され、数多く開催される学生イベントは、学園都市八王子の魅力を広くＰＲするコンテンツの役割を担っている。

さらに、大学コンソーシアム八王子により「学生ＣＭコンテスト」や「学生企画補助金制度」など、学生が地域に出向いて活動し、本市の持つ新たな魅力を発見するきっかけとなる取り組みが進められている。

八王子で学び活動する一人ひとりの学生から、日頃感じ得た八王子の魅力を、ＳＮＳ等を通じ幅広く発信し、八王子を盛り上げていただきたい。

今年度実施するブランドメッセージの作成など、若い皆さんが自ら八王子に関わって一緒に盛り上げていくという機運をつくる取り組みを、今後も推進していく。

【その後の対応】

平成 31 年（2019 年）３月に八王子市のブランドメッセージ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」を発表した。今後、利用マニュアルの公開により、市民がブランドメッセージを自由に活用して、八王子の魅力を発信する環境を整えるとともに、サイトや SNS などでの市民活動の発信や地域ワークショップの開催を行うなど、若者が「八王子に関わり、盛り上げていきたい」と思ってもらう機運醸成の取り組みを推進していく。

また、大学コンソーシアム八王子と連携を図り、学生が地域に出向いて活動し、本市の魅力の発信につながる事業の充実に引き続き取り組んでいく。

＜意見＞　**「ボーイスカウト・ガールスカウトを通じた『本市生涯学習、社会教育活動に学園都市としての利点を』」について**

日本では少子高齢化により、スカウト運動に参加する子どもたちの減少に歯止めがかからない状況がある。八王子市は、全国的に誇れる学園都市であり、このすばらしい人的資源を活用しない手はないと考えている。

（佐藤　研治　様）

≪市長発言（当日）≫

市では、昨年策定した「はちおうじ学園都市ビジョン」において、学生の地域活動を支援し、各事業においても、学生ボランティアの参加を積極的に促進している。

スカウト活動をすすめていくうえで、人材の確保が難しいとのことだが、広報「はちおうじ」等を活用し、募集を行っていくほか、大学コンソーシアム八王子を通じて、青少年教育活動であるスカウト運動について周知していくことも可能と考えている。

【その後の対応】

ボーイスカウト・ガールスカウト関係団体等の要請に基づき、大学コンソーシアム八王子を通じ、スカウト運動について周知を図っていく。

また、今後も広報「はちおうじ」等を活用し支援していく。

＜意見＞　**「伝統文化を後世に残していくため」について**

伝統文化を後世に残していくために、若い人材の確保が課題となっている。

ＳＮＳを活用したり、パンフレットを作成し、町会で回覧したり、町会報で募集をかけたりしているが、なかなか応募者がいないのが現状。

今回、八王子市で「日本遺産」の認定をめざして準備が開始されたと聞いている。この日本遺産の認定がされれば、地元の方々に、我が町の宝として龍頭（りゅうとう）の舞をもっと認識してもらうことができ、舞をやってみたい若者が増えるきっかけにもなると思う。

（内田　好延　様）

≪市長発言（当日）≫

八王子には、龍頭の舞を含め９つの獅子舞が市の無形民俗文化財として指定されている。

このようなすばらしい伝統芸能がいくつも残されていることを、市民の方に大いに知っていただきたいと思っている。

市では、「伝統文化ふれあい事業」など、獅子舞継承の支援を行っており、今後も、獅子舞の理解や継承に力を注ぎたい。

日本遺産の認定には「歴史文化基本構想」を策定することが一つの条件となっている。当然、八王子の遺産として獅子舞も一つの伝統芸能としてしっかりと残していかなければならないと思う。

伝統芸能を継承することは、どこの地域も子どもの数が減ってきて厳しいところがあるが、皆さんが継続して活動ができるよう、支援策の充実を図っていきたい。

【その後の対応】

獅子舞の保存管理団体へ支給する管理公開謝礼金について、今年度から２万円から４万円に倍増し、保存会の支援をおこなった。また、歴史文化基本構想の策定や日本遺産申請の準備にあたり、獅子舞をはじめ伝統芸能の重要性をその中に盛り込む予定である。

＜意見＞　**「ごみ問題への取組」について**

八王子は環境保護行政で非常に高く評価され、国際協力機構（ＪＩＣＡ）からミクロネシア連邦での事業協力を依頼され、既に活動しているようだが、広報などで活動報告がされていない。八王子の誇れる仕事だと思うので、市民に広報してもらいたいと思う。

（大橋　勝彦　様）

≪市長発言（当日）≫

ミクロネシア連邦チューク州のごみ問題改善の取り組み事業については、ＪＩＣＡ側の予算で、創価大学と連携しながら現地で指導を行っている。過去には中古の清掃車を送り、市の職員も青年海外協力隊として行っている。

現地には焼却施設がなく、全て埋め立てている。リサイクルといった文化もないので、ごみの収集業務やごみ減量に向けた指導をするために、今回事業提案を行ったところ、採択された。

現在、定期的にミクロネシアに行って指導を行っているが、本格的な取り組みが始まったばかりで、まだ市民の皆さんに報告する段階ではないが、ある程度進展したところで、広報等で報告したい。

【その後の対応】

・広報特集号（10 月 15 日号を予定）にて、事業概要及び成果を報告予定。

・10 月 6 日に開催予定の八王子市国際交流フェスティバルにて、事業概要を報告予定。

＜意見＞　**「高齢者の輝く八王子」について**

八王子のまちをもっと住みやすく、楽しいまちにするには、高齢者世代の活躍の場の拡大と高齢者世代と若者世代の繋がりを大切にしていけば良いと思う。

高齢者世代の活躍の場の拡大としては、高齢者の方の再雇用をもう少し積極的に行えば良いと思う。

（峯尾　了理　様）

≪市長発言（当日）≫

地域社会の活力を維持するためには、豊富な知識や経験を持つ高齢者の皆さんの力が必要であり、その熟練した能力などを発揮できる環境整備が必要と考える。

高齢者の皆さんの活躍の場の一つであるシルバー人材センターでは、豊かな経験・知識・能力を活かしていろいろな仕事をしていただき、仕事を通して、自身の生きがいを高めるとともに、地域社会の活力あるまちづくりに貢献することを目指している。

【その後の対応】

高齢者の生きがいづくりを目的とした就業機会を提供する公益社団法人八王子市シルバー人材センターの運営支援・指導等を行うことで、高齢者の社会参加を促進するため、「シルバー人材センター運営費補助金」として、平成30年度（2018年度）に引き続き、令和元年度（2019年度）予算においても継続して予算計上している。

国（ハローワーク）や東京都と協力して就職面接会や就職支援セミナーを行うほか、高齢者を雇用した際の助成金制度を事業者に紹介するなど、働く意欲のある高齢者の就業を支援している。

平成31年度 予算総額4,153億円

問 財政課(☎620・7349、FAX628・1400)

平成31年度の当初予算が第1回市議会定例会で可決されました。予算総額は、30年度に比べて4・2%増の4153億円。このうち一般会計の予算額は2117億円といずれも過去最大となっています。

31年度予算は、子どもたちが安心して遊び、学び、暮らしていける「夢と希望を持てるまち」をめざし、「子どもとその家庭への支援」、「災害への備え」に重点を置き、編成しています。「子どもの生活実態調査」の結果を踏まえ、ひとり親家庭への学習支援や、スポーツ・伝統文化に触れる体験活動などを実施。また、避難所生活の環境改善を図るため、計画的に避難所の空調機を整備します。

さらに、昨年3月に国の認定を受けた「中心市街地活性化基本計画」に基づき、マルベリーブリッジの西側への延伸や、都の産業交流拠点の整備にあわせた保健所の整備などをはじめ、計画に掲載したソフト・ハードすべての事業を予算化しています。

一般会計は2117億円

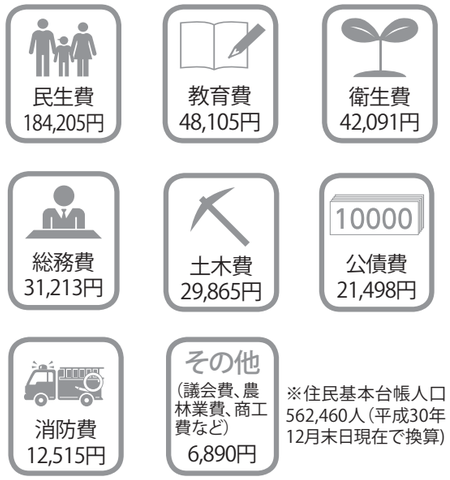
一般会計の歳入のうち、市税は全体で912億2千万円を見込みました。また、国・都支出金は49億2千万円増の697億7千万円となっています。

歳出では、民生費が障害者自立支援給付や介護保険施設などの整備にかかる経費の増により1036億1千万円となり、歳出総額に占める割合は48・9%となっています。また、教育費はいずみの森小中学校の整備や給食センターの整備にかかる経費の増により、前年度に比べて42・5%、80億7千万円増の270億6千万円となりました。

特別会計は2036億円

特別会計の合計は、前年度に比べて3・0%、59億4千万円増の2036億円となりました。

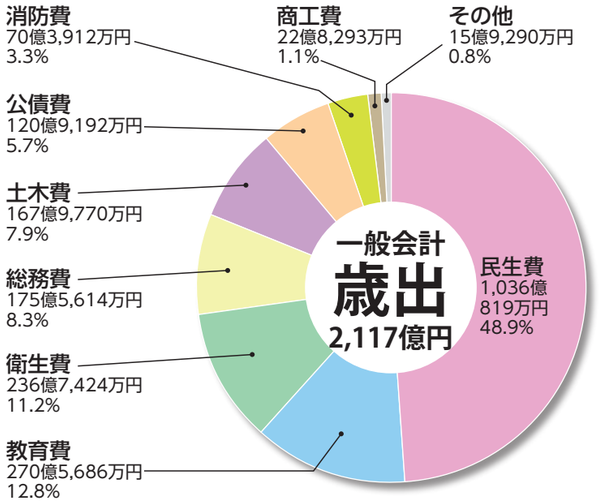
一般会計での1人当たりの予算 ⇒ 376,382円

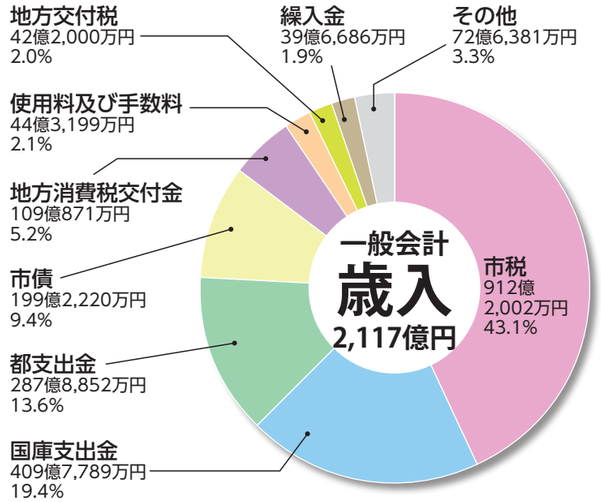


※住民基本台帳人口562,460人(平成30年12月末日現在で換算)

歳出の性質別内訳

区分		31年度予算	構成比
義務的経費	扶助費	722億4,329万円	34.1%
	人件費	280億7,676万円	13.3%
	公債費	120億9,192万円	5.7%
投資的経費		299億1,341万円	14.1%
物件費		277億2,389万円	13.1%
繰出金		241億9,330万円	11.4%
補助費等		142億1,929万円	6.7%
維持補修費		22億8,939万円	1.1%
その他		9億4,875万円	0.5%





平成31年度予算の会計別内訳

区分		31年度予算	増減率
一般会計		2,117億円	5.4%
特別会計	国民健康保険事業	582億2,571万円	−0.6%
	後期高齢者医療	133億3,173万円	3.9%
	介護保険	411億1,806万円	2.3%
	母子・父子福祉資金	1億5,615万円	−0.8%
	下水道事業	153億4,522万円	1.6%
	土地取得事業	2億1,069万円	−0.1%
	駐車場事業	4億8,822万円	−23.0%
	借入金管理	420億3,552万円	12.9%
	給与及び公共料金	325億8,515万円	−0.0%
	小計	2,035億9,645万円	3.0%
計		4,152億9,645万円	4.2%

主な用語説明【性質別歳出】

■**扶助費**…児童福祉や生活保護など社会保障制度に基づき支出する経費
■**人件費**…職員の給与や議員の報酬などの経費
■**公債費**…市が借り入れた市債の元金・利子の返済にかかる経費
■**投資的経費**…道路・公園・学校など公共施設の整備にかかる経費
■**物件費**…賃金や光熱水費、委託料などの経費
■**繰出金**…特別会計に支出する経費
■**補助費等**…市民の皆さんや市内の団体への補助金などの経費
■**維持補修費**…公共施設の維持にかかる経費

主な用語説明【目的別歳出】

■**民生費**…障害者・高齢者・児童福祉、生活保護など社会福祉にかかる経費
■**教育費**…学校教育や生涯学習、スポーツ振興などにかかる経費
■**衛生費**…保健衛生やごみ処理などにかかる経費
■**総務費**…庁舎管理や戸籍・住民票の発行、市税の賦課徴収などにかかる経費
■**土木費**…都市計画や道路、公園などにかかる経費
■**公債費**…市が借り入れた市債の元金・利子の返済にかかる経費
■**消防費**…消防、防災にかかる経費
■**商工費**…商業や工業、観光振興などにかかる経費

主な用語説明【歳入】

■**市税**…市民の皆さんや市内の法人が市に納める税金
■**国庫(都)支出金**…市が行う特定の事業に対して国(都)が交付するお金
■**市債**…市が借り入れるお金
■**地方交付税**…全国的に一定の行政サービスを提供できるよう地方公共団体の財政力に応じて国が交付するお金
■**繰入金**…市の貯金である基金の取り崩しや、特別会計から一般会計に繰り入れるお金

子どもたちが「夢と希望を持てるまち」へ

平成31年度は市の基本構想・基本計画「八王子ビジョン2022」に掲げた6つの都市像を実現するための事業を予算化。ここではその主なものを紹介します。新は新規、充は充実を図る事業です。

安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち

避難所における空調機設置新…7,000万円

避難者の安全と避難所生活の環境改善を図るため、市民センター体育室2か所と中学校武道場1か所に空調機を設置します。

マルベリーブリッジの西側への延伸…15億2,552万円

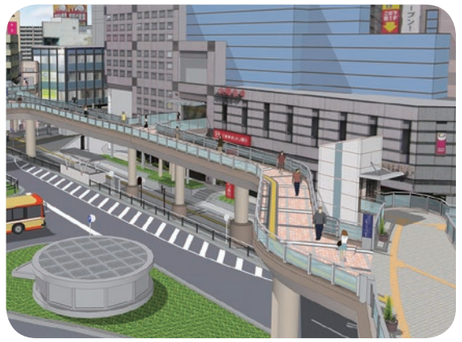
来年3月からの供用開始に向け、マルベリーブリッジの西放射線ユーロードへの延伸工事を推進します。

旭町・明神町地区周辺まちづくりの推進…8,126万円

旭町街区と明神町街区との一体的なまちづくりを推進するため、地区開発推進の検討や隣接する道路の無電柱化を進めます。

その他の事業

市街化調整区域の集落における住民主体のまちづくり支援充…698万円　空き家の利活用促進充…300万円　など



八王子駅北口をより便利に（延伸後のイメージ）

魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち

にぎわいあふれるまちへ

MICE（マイス）の推進充…5,478万円

八王子の魅力ある資源を活用したMICE誘致戦略を推進するため、大学教授などの市域の人材を活かし、本市の魅力発信や、MICE開催者に対して誘致の働きかけなどを行います。

※MICE：多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

中小企業の海外展開支援新…368万円

中小企業の海外展開を支援するため、海外ビジネスの理解を深めるセミナーを開催するほか、海外向けの販路拡大などの取り組みに対して補助を行います。

その他の事業

企業立地の促進充…3億9,687万円　民有林振興充…574万円　プレミアム付商品券事業新…7億5,489万円　など

一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

環境教育・学習の推進充…2,869万円

小学校の児童への環境教育支援を充実するほか、里山保全活動に携わる里山サポーターを育成します。

水辺づくりの推進充…1億1,139万円

市街地の水辺の創出や浅川の水量を確保するため、湧水の導水整備を行うほか、地域住民と協働し、南浅川の清掃などを実施します。また、高尾山口駅前の案内川左岸広場の整備に向けた基本設計を行います。

その他の事業

新館清掃工場の建設…19億8,290万円　など

自然とともに豊かな時間を

みんなで担う公共と協働のまち

町会・自治会活動の支援充…3億32万円

町会・自治会が行う集会施設の整備や公衆街路灯の設置のほか、防犯・防災情報や行政からの情報などを掲示する掲示板の新設・修繕などに必要な経費を補助します。

都市の魅力の創造・発信充…1,606万円

八王子らしさやまちの将来像を表すブランドメッセージを積極的に周知・活用していくとともに、特設サイトの構築やブランドブックの制作などにより、まちの魅力を発信します。

その他の事業

ICT活用充…5,541万円　地域づくり推進事業新…550万円　など

あなたのみちを、あるけるまち。八王子

ブランドメッセージを活用し、まちの魅力を発信

健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち

産後の母子をきめ細かにケア

人材の確保・定着・育成充…2,147万円

障害者福祉人材、介護人材の総合的な確保・定着・育成を図るため、外国人従事者などに対して、介護業務に必要な日本語学習支援を行うなど、研修や相談会を実施します。

母子保健の充実充…8億2,494万円

子育て支援のため、八王子版の母子健康手帳を作成。新生児聴覚検査の費用を助成するほか、3歳児健康診査に視機能簡易検査を追加し、視機能障害の早期発見・治療を図ります。

その他の事業

受動喫煙対策の推進新…5,410万円　生活困窮者の自立支援充…1億9,232万円　健診・検診の推進充…8億6,640万円　など

活き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち

いじめ防止対策充…662万円

小学5年生と中学2年生を対象に、楽しい学校生活を送るためのアンケート「学級集団アセスメントQ-U」を年2回実施します。

幼児教育・保育の無償化

10月から幼稚園、保育園、認定こども園などを利用する3～5歳のすべての世帯と0～2歳の非課税世帯の保育料を無償化。国の制度の対象外となる幼稚園類似施設などへも本市独自の支援を行います。

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組推進充…4,479万円

スポーツクライミングアメリカ合衆国代表の事前キャンプを受け入れ、市民交流を図ります。また、国内初の開催となる「IFSCクライミング世界選手権八王子2019」の支援を行います。

その他の事業

給食センターの整備…28億3,323万円　子ども食堂運営支援新…384万円　保育施設の整備促進充…9億3,579万円　学童保育所施設整備充…3億4,411万円　富士森公園陸上競技場の改修充…13億7,583万円　など

クライミングなどのスポーツイベントを開催

７．開催案内ポスター

平成３１年度（2019 年度）

市長と語る

テーマ

みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために

協働のまちづくりに向けて、市民の皆さんと市長が直接語り合う対話集会です。
日頃の活動等をとおしてあなたの考える「地域づくり」についてお聞かせください。
「八王子市町会・自治会の活動活性化の推進に関する条例」などについてもご説明します。

	開　催　日　時	会　　場	発言申込書提出期限
①	５月 25 日（土） 午後７時～８時３０分	八王子駅南口総合事務所	５月 13 日(月)
②	６月１日（土） 午後２時３０分～４時	元八王子市民センター	
③	６月 22 日（土） 午後２時３０分～４時	由木東市民センター	６月３日（月）
④	６月 29 日（土） 午後７時～８時３０分	由井市民センター	

※開催時間にご注意ください。
※会場へお越しの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。
※発言希望の方は事前に申し込みが必要です。
※入場無料です。

手話通訳
要約筆記

託児あり
（事前にご連絡を）

発言申込書提出方法

◆発言を希望される方は、各提出期限までに、「発言申込書」を郵送または FAX でご提出ください。
ホームページからご提出いただく場合には、下記 URL または右の２次元コードからアクセスしてください。
(https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/002/005/007/p014146.html)

あなたのみちも、あるけるまち。八王子

【お問い合わせ先】八王子市 総合経営部 広聴課
〒192-8501 八王子市元本郷町３－２４－１　☎ 620-7411（直通）/　FAX 620-7322

令和元年度（２０１９年度）「市長と語る」の記録
令和元年（2019 年）11 月

発行：八王子市　総合経営部　広聴課
〒192-8501 八王子市元本郷町３-24-１
電話 042(620)7411（直通）
FAX　042(620)7322